

児童生徒が「やってみよう」「できた」と感じて活動する授業づくり

## ICT 活用シート

小学部 赤 G(1・2年)

### 児童生徒(Aさん)の実態

・体育の学習に意欲的に取り組む様子が見られる。「できる」という思いから気がはやることが多く、動き方を確認したり、落ち着いて取り組んだりすることに難しさがあるため、両手と体の動きがバラバラになっている。

体育科「歩いて渡ろう!ジャンプで乗ろう!~器具を使った運動遊び~」

単元・題材を通して目指したい

Aさんの「やってみよう」「できた」と感じて活動する姿

☆跳び箱の上に着いた両手に、体重をのせながら前方に移動する姿。



活用する機器やアプリ等の名称

【機器やアプリ等の名称】

タブレット端末、カメラアプリ、写真アプリ

活用の手立てと、手立てに対する教師の支援

【手立て①】

・移動のする際の動作が視覚的に分かりやすいように、タブレット画面に手本の動画を表示し、活動前に提示する。

【手立て①に対する教師の支援】

・「ゆっくり進もうね」「パン(両手を着く)・ピョン(前方に移動する)」など、動作のポイントについて、身振りを交えながら、具体的な言葉で伝える。  
・両手を着く位置に気付けるように、跳び箱上に手形のイラストや色テープなどの目印を付ける。

【手立て②】

・繰り返し活動に取り組む意欲をもてるように、カメラアプリや写真アプリを用いて、本人の活動の様子を動画で撮影し、活動後に一緒に視聴する。

【手立て②に対する教師の支援】

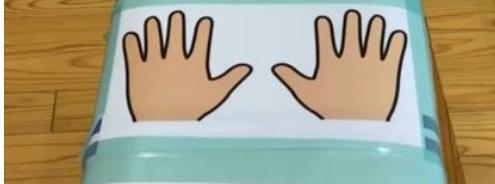
・動画を本人と一緒に視聴する際には、「ここが上手だったね」と良かった点を具体的に伝えたり、「次は、〇〇を頑張ってみる？」と問いかけたりする。

## 【授業実践】体育科「歩いて渡ろう!ジャンプで乗ろう!~器具を使った運動遊び~」

### 手立て① 実践例

活用場面:活動前に、跳び箱の手本を示す場面

動画で両手を着く手本を示す。  
跳び箱のマット面に、手形シートを貼る。  
「パン（両手を着く）」という掛け声で  
両手をシートの上に着く。



実践した活用方法について  
・テレビ画面に、手本の映像を流すことで、注目を促したり、映像と同じ手本の動きをその場で示したりした。

#### Aさんの学習の様子

・教師の手本をまねしながら、跳び箱に両手を着いて跳び乗ったり、両手を着く→腰を浮かす、といった順で前方に移動したりする様子が見られた。

### 手立て② 実践例

活用場面:活動に一度取り組んだ後の場面



写真アプリ  
タブレット  
テレビを使用。

実践した活用方法について

・Aさんが実際に取り組んだ様子を撮影した動画をタブレットやテレビに映し、担任やT1が良かったところを称賛したり、改善点を一緒に考えたりした。

#### Aさんの学習の様子

・映像を見て、次に頑張るところを考えることは難しかったが、称賛をされることが嬉しかったようで、スムーズにできないことがあっても、粘り強く活動に取り組む様子が見られた。

## Aさんの学習する様子から気付いたICT活用の良さ

・カメラアプリを利用して動画撮影をしたことで、実際に自分が跳ぶ姿を見ることができ、「できるよ」「またやりたい」と次への意欲につながった。また、教師と一緒に動画を見て、「ここで両手をつくんだよね」と確認することができた。

## ICTの活用方法や支援等の改善点

・集団の中では、手本の動画をあまり見ない児童も一定数いたという点で課題が残った。教師が実際に体を支えたり、言葉かけをしたりする指導を中心に据えつつ、場面に応じてICTを活用するのがよいと感じた。

今後の体育の授業で、動画を見て振り返りをする場面があった際には、Aさんの発言や身振りを具体的な言葉で代弁し、次に目指す動きを明確にイメージできるような支援も引き続き行っていきたい。

児童生徒が「やってみよう」「できた」と感じて活動する授業づくり

## ICT 活用シート

小学部 3・4・5・6 年グループ 音楽科

### 児童生徒 (A さん) の実態

- ・音楽の授業が好きで、活動全般に意欲的に取り組むことができる。
- ・バチを両手に持ち、太鼓を叩いて音を出すことができる。リズム打ちでは教師が目の前で手本や言葉かけの支援をすると合わせて叩けるが、支援が離れるとリズムが崩れたり、手が止まったりすることが多い。
- ・恥ずかしさや緊張からか、人前にでることに苦手意識が強い。慣れている環境であれば、スムーズに人前に出て発表することができるようになってきている。

### 音楽科 「 曲のリズムに合わせて楽器を演奏しよう 」

#### 単元・題材を通して目指したい

A さんの「やってみよう」「できた」と感じて活動する姿

☆教師の手本の動きに合わせて、バチを持った両手を一定のリズムで交互に動かしながら、和太鼓を叩ける姿。



#### 活用する機器やアプリ等の名称

##### 【機器やアプリ等の名称】

- ・大型テレビ、AppleTV、タブレット端末、iMovie

#### 活用の手立てと、手立てに対する教師の支援

##### 【手立て①】

- ・和太鼓の打ち方が視覚的に分かりやすいように、事前に撮影した手本映像をタブレット端末に表示し、太鼓を叩く活動時に提示する。

##### 【手立て②】

- ・自分の演奏に自信をもてるように、本人が演奏する様子を動画で撮影し、活動後に本人と一緒に動画を視聴する。

##### 【手立て①に対する教師の支援】

- ・太鼓を叩く動作に注目しやすいように、手元の動きのみを撮影した映像や、赤と白のテープを巻いたバチを用意する。
- ・「赤・白・赤・白・赤…」とリズムよく声に出しながら、両腕を交互に動かす手本を示す。

##### 【手立て②に対する教師の支援】

- ・動画を視聴する際には、「バチの動き」「叩くタイミング」「手の高さ」など、本人の良かった点を具体的に伝えて称賛する。また、写真も撮影し、教室に掲示することで、授業の前に本人と一緒に写真を見て、前時の良かった点を伝える。

## 【授業実践】音楽「曲のリズムに合わせて楽器を演奏しよう」

### 手立て① 実践例

活用場面：和太鼓を叩くとき



実践した活用方法について

- ・手本映像を大型テレビに映すことで、それを見ながら正しいリズムで和太鼓を叩けるようにした。
- ・叩かない部分を示す効果音や、打ち始めのきっかけとなる言葉を動画内に入れ、それを聞くことで、正しいリズムで叩けるようにした。

Aさんの学習の様子

- ・手本映像を見ると動きが遅くなり、曲に合わせて正しいリズムを打つことは難しかった。練習を繰り返すことで、効果音や「せーの」の言葉に合わせて叩き出したりすることはできるようになった。

### 手立て② 実践例

活用場面：振り返りを行うとき



実践した活用方法について

- ・本人が演奏する姿を動画で撮影し、テレビに映して教師と一緒に見たり、できていたところを確認したりすることで、自信をもって演奏に臨めるようにした。

Aさんの学習の様子

- ・動画を見て映っている人の名前を言ったり、体を動かしたりする様子が見られた。教師が「曲に合わせて叩けているね」と言葉をかけると嬉しそうだった。本人が自分を客観視したり、自信をもつことにつながったかについては、手応えが少なかった。

## Aさんの学習する様子から気付いたICT活用の良さ

- ・効果音や教師の言葉かけを動画に入れたことで、それを手がかりにして、曲に合わせて太鼓を叩けるようになった。聴覚的な支援を動画にまとめることで、毎回同じ支援を受けることができ(支援をする教師が変わっても、いなくても)、上達につながったように感じる。
- ・演奏する姿を撮影し、振り返ることで、本人も教師もできたことを何度でも見ることができる点が良い。
- ・児童の反応を受けて動画を再編集しやすかったところがよかった。

## ICTの活用方法や支援等の改善点

- ・Aさんにとって、動画を見ながら同時に同じ動きをすることは、難しかった。教師が目の前で手本を見せたり、言葉をかけたりしながら練習を重ねることで、上達した部分が大きかったように感じる。手本としてどのような映像(全身か、手元か、リズムを視覚的に提示するのか)を提示することが分かりやすいのか、授業を進めながら悩んだ。Aさんの活動の様子を見ながら、提示する映像の内容の検討の大切さを実感した。
- ・ICTをもっと有効活用できる場面があったかもしれない。

児童生徒が「やってみよう」「できた」と感じて活動する授業づくり

## ICT 活用シート

中学部・国語いちごG

### 児童生徒(Aさん)の実態

・難しいことや分からないことを考えることは苦手だが、知っていることや分かっていることを伝えたり、発表したりすることは得意である。答えにあまり自信がない時は、教師に確認する様子が見られる。

国語科 「(写真や絵の名称を文字で表そう)～かるたの読み札や取り札を作ろう～」

単元・題材を通して目指したい

Aさんの「やってみよう」「できた」と感じて活動する姿

☆かるたの取り札を作る活動を通して、写真や絵の名称を表す平仮名を50音表から一人で探し、書こうとする姿。



### 活用する機器やアプリ等の名称

#### 【機器やアプリ等の名称】

タブレット端末、50音表ボード(音声付き)、Finger board pro、Apple pencil

### 活用の手立てと、手立てに対する教師の支援

#### 【手立て①】

・取り札を作る場面で、写真や絵の名称を表す平仮名を一人で探し、見つけることができるように、音声再生機能が付いている50音表ボードやFinger board pro アプリを用いる。

#### 【手立て①に対する教師の支援】

・本人が50音表ボードやアプリを使い、平仮名を見つかる様子を見守ったり、見つけることができたから称賛したりする。  
・活動の最初に、50音表ボードやアプリの使い方に関する手本を示す。

#### 【手立て②】

・自分が書いた文字の修正が簡単にできるように、Apple pencilとタブレット端末を用いて、端末の画面上で取り札を作れるようにする。

#### 【手立て②に対する教師の支援】

・活動の最初に、書き方や修正方法などの手本を示す。

## 【授業実践】教科・領域名「単元・題材名」

### 手立て① 実践例

活用場面：書きたいひらがなを見つける場面



#### 実践した活用方法について

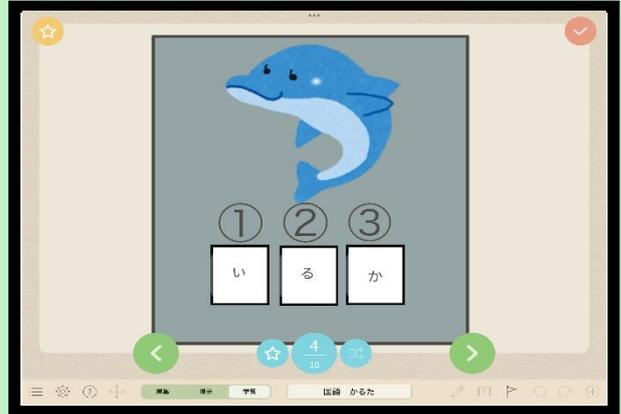
- ・50音表に音声を付けたことで、確認しながら自分でひらがなを探せるようにした。
- ・書き入れる文字に対応する音声を入れて設定し、何を書くか確認できるようにした。

#### Aさんの学習の様子

・50音表を端から押して探していた。繰り返し押して音声を頼りに探す様子があった。作成した音声付き50音表より市販の50音表音声ボードの方が使いやすそうと途中から変えて使用していた。

### 手立て② 実践例

活用場面：イラストに対応するひらがなを書く場面



#### 実践した活用方法について

- ・カルタづくりを通してイラストに対応するひらがなを書きこめる手書き入力を使って取り札を作成できるようにした。

#### Aさんの学習の様子

・使い方を確認した後は、一人でカルタづくりに取り組んでいた。正誤判定で確認しながら一文字ずつ書き、間違った時は修正していた。

## Aさんの学習する様子から気付いたICT活用の良さ

音声付きの50音表を使ったことが、自分で対応するひらがなを探そうとする姿につながった。修正が簡単で何度も書きなおしができ、正誤判定で即時評価された為、Aさんにとって負担にならず取り組めた。

## ICTの活用方法や支援等の改善点

手書き入力の場合、コンピューターが文字を判別しているので文字の大きさに応じて、「あ」が「ぁ」と変換されて間違いになってしまい、どこが間違っているのか伝えるのが難しかった。

Apple pencil 未対応のiPadの為、Apple pencilの活用ができなかった。

# 児童生徒が「やってみよう」「できた」と感じて活動する授業づくり ICT 活用シート

中学部 自立活動 G(3年)

## 児童生徒(Aさん)の実態

- ・運動しようがいのために、小さな教材を持ったり離したりすることは難しいが、iPad の画面上であれば比較的思い通りのドラッグ操作が可能である。
- ・写真や簡単な図形、記号の対応付けができるようになった。

### 自立活動「同じ文字をみつけよう」

単元・題材を通して目指したい

Aさんの「やってみよう」「できた」と感じて活動する姿

☆iPad の画面操作を通じて、おりなく操作してマッチング課題を達成し、結果に満足できている姿



### 活用する機器やアプリ等の名称

#### 【機器やアプリ等の名称】

外部モニター、Apple TV、タブレット端末、イラスト・記号マッチングアプリ(iPad用)。

### 活用の手立てと、手立てに対する教師の支援

#### 【手立て①】

・無理なくiPadのドラッグ操作ができるようにする。

#### 【手立て①に対する教師の支援】

・腕を動かしやすい方向を考慮してアプリ画面のデザインを工夫する。  
・画面全体が確認し易いように外部モニターでミラーリングする。

#### 【手立て②】

・マッチングが達成した状態を明確に確認できるようにする。

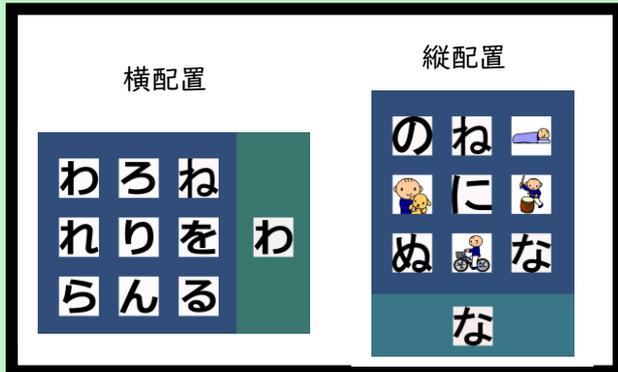
#### 【手立て②に対する教師の支援】

・見本と選択肢とが正確に重ね合わされた時に、目立つ効果(移動、拡大、音響等)が入るようにする。

## 【授業実践】教科・領域名「単元・題材名」

### 手立て① 実践例

活用場面：イラストやひらがなの対応づけ場面。できるだけ無理のない動作で行う。

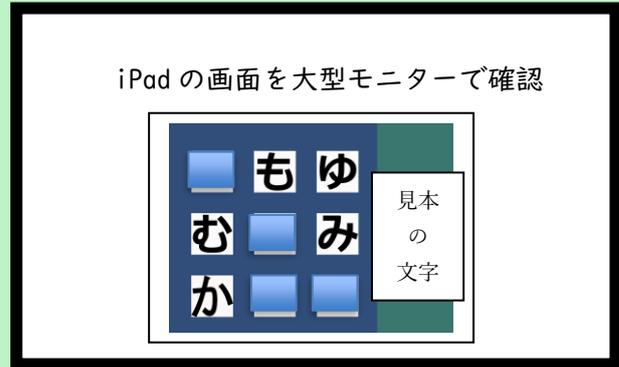


実践した活用方法の工夫  
2枚をドラッグで重ねる際、一部が重なった時点で自動的に重ね合わせが完了するように設定した。

Aさんの学習の様子  
iPadの操作で縦型の画面より横型の画面の方が僅かながら手を前方に伸ばす必要がなく、不要に筋緊張を上げずに横方向にドラッグしていた。

### 手立て② 実践例

活用場面：ひらがなの対応づけ場面。結果をしっかりと視認する。



実践した活用方法  
・iPadの画面を外部モニターにミラーリングすることで、操作の際、手の陰になってしまうオブジェクトの動きを視認できるようにした。

Aさんの学習の様子  
ドラッグ操作の際、iPad画面と大型モニターとの関係を理解して、オブジェクトを動かす時には大型モニターの方をよく見るようになった。

## Aさんの学習する様子から気付いたICT活用の良さ

- ・タブレットのアプリを最適化することで、運動制約が強く他の学習環境では難しかった絵や記号などのマッチング学習を効果的に進めることができた。
- ・大型モニターを使うことで、自分の運動と画面上の変化の関連が明確になり学習の効率が上がった。

## ICTの活用方法や支援等の改善点

- ・iPadの画面上でドラッグ操作を行わせる際、上肢の動かし易さを勘案してアプリの配置を縦型から横型に変更して実施し、操作状況を再評価した。
- ・マッチング操作の上達に伴い、「Finger Board」などの標準的なiPadのアプリを活用した教材活用を行えるようにしたい。

児童生徒が「やってみよう」「できた」と感じて活動する授業づくり

## ICT 活用シート

高等部 1～3年・農作業班

### 児童生徒 (Aさん) の実態

- ・自らすすんで、活動することが苦手だが、指示通りの活動をすることができる。
- ・一斉指導での説明を聞き取ることはできないが、1対1で確認することで、どのような作業をするのかを理解することができる。

作業学習 (農作業) 「1粒ずつ、丁寧に種をまこう (ブロッコリーの播種)」

単元・題材を通して目指したい

Aさんの「やってみよう」「できた」と感じて活動する姿

☆作業のやり方や手順を示す画像や動画を見て、自分が何をするのかが分かり、落ち着いて取り組む姿。



活用する機器やアプリ等の名称

【機器やアプリ等の名称】

タブレット端末、カメラアプリ、写真アプリ、keynote

活用の手立てと、手立てに対する教師の支援

【手立て①】

・作業の内容や手順に見通しをもてるよう、TIの板書や手本の様子をカメラアプリで撮影し、タブレット端末に表示する。

【手立て①に対する教師の支援】

- ・TIが口頭で伝えた内容の中から、作業のポイントを絞って具体的に伝える。
- ・本人が取り組む作業の内容や手順を改めて伝えたり、今は何をするのかを尋ねたりする。

【手立て②】

・作業のやり方を繰り返し確認できるように、keynoteで作業手順の動画を貼り付けたスライドを作成する。

【手立て②に対する教師の支援】

- ・必要なタイミングで、必要な情報を得られるよう、1枚のスライドに 2～3つの動画を挿入貼り付け、選択肢を設ける。
- ・自分で操作できるように、動画再生の方法を教師が手本として示す。

## 【授業実践】教科・領域名「単元・題材名」

### 手立て① 実践例

活用場面：作業実習中  
(ブロッコリーの播種)

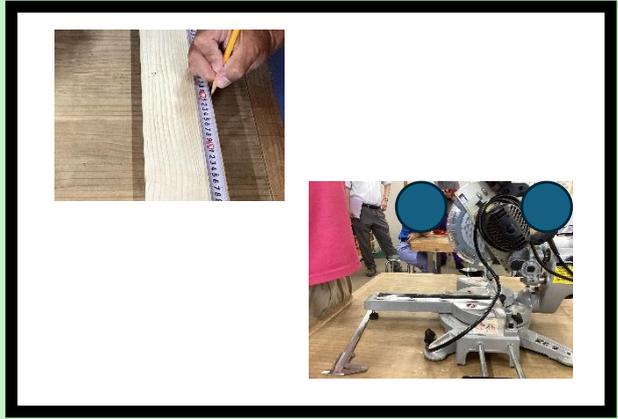


実践した活用方法について  
・種まきの手順を説明した場面の画像を静止画、動画の双方で撮り、実際に作業をする際に再生して確認をした。

Aさんの学習の様子  
・画像を見せることで、関心を持ち、他の生徒の動きを見ながら、作業に参加することができた。

### 手立て② 実践例

活用場面：作業実習中  
(木工作业)



実践した活用方法について  
・罫書の位置がわかるように写真で提示したり、上記の写真以外に keynote の動画で木材切断の留意点を確認した。

Aさんの学習の様子  
・動画を何度も確認して、実際に木材を切断する際にも動画や画像を見て、慎重に作業に参加することができた。

## Aさんの学習する様子から気付いた ICT活用の良さ

作業手順の説明をする際に、実際の作業の細かな手元を他の生徒に隠れてよく見られないことが多い。説明場面を画像にして、作業を実施するときに、タブレットを用いて確認することで落ち着いて作業に取りかかることができた。

## ICT の活用方法や支援等の改善点

農作業では、作業行程がきちりとしているため、画像や動画を活用して実際に作業を行う際には確認しながら実施することで、作業効率があがる。ただし、畑でタブレット等を使用したりすることが難しい場合がある。

児童生徒が「やってみよう」「できた」と感じて活動する授業づくり

## ICT 活用シート

高等部・受託班

### 児童生徒(Aさん)の実態

・①作業→②教師に作業の報告をする、というように、連続した活動に対し、集中力を持続して取り組むことは苦手だが、1つの作業を長時間続けて取り組むことは得意である。

作業学習・受託班「工程に沿って丁寧に箱を折り、仕上がりを確認しよう」

単元・題材を通して目指したい

Aさんの「やってみよう」「できた」と感じて活動する姿

☆タブレット端末の画面に表示されている手本の映像を見ながら、不良品を出さないよう丁寧に箱を折る姿。



### 活用する機器やアプリ等の名称

#### 【機器やアプリ等の名称】

タブレット端末、まねるんです、Finger board pro

### 活用の手立てと、手立てに対する教師の支援

#### 【手立て①】

・箱折りの手順が視覚的に分かりやすいように、「まねるんです」で作成した作業手順動画を、本人が作業する机上のタブレット端末に表示する。

#### 【手立て①に対する教師の支援】

・箱の折り方に注目しながら作業に取り組めるように、箱を折る手元のみを撮影した映像を用意する。  
・動画の通常再生、スロー再生の操作方法を、教師が実際にアプリを操作して手本を示す。

#### 【手立て②】

・作業に対する意欲を高められるように、教師が検品し、仕上がりに問題がない場合は、「Finger board pro」を用いて作成した合格マークをタブレット端末に表示する。

#### 【手立て②に対する教師の支援】

・「合格マーク」は、花丸のイラストや、教師が拍手・ガッツポーズをしている写真を使用する。  
・合格時には、良かった点を具体的な言葉で称賛する。不合格時には、その場で教師が箱を折る手本を示しながら、改善点を具体的に伝える。

## 【授業実践】教科・領域名「単元・題材名」

### 手立て① 実践例

活用場面：箱折り作業の時に動画を使用した。

- ・タブレット、
- ・アプリ「まねるんです」



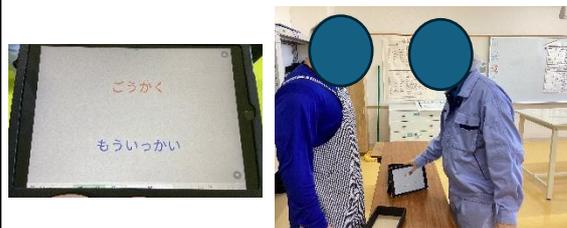
実践した活用方法について  
・タブレットを作業机に置き、「まねるんです」の動画を見ることで、手順を確認できるようにした。

Aさんの学習の様子  
・作業手順がわからないときは、「かめさん」を押してゆっくり再生して確認するなど、丁寧に作業することができていた。

### 手立て② 実践例

活用場面：箱折りの検品をするときに使用した。

- ・タブレット、
- ・アプリ「Finger board pro」



実践した活用方法について  
・検品の机にタブレットを置き、合格の時は「ごうかく」不合格の時は「もう一度」を自分で押すことができるようにした。

Aさんの学習の様子  
・「ごうかく」を押すと流れる動画（教師が「合格です」と○をする動画）が気に入り、意欲的に箱折り作業に取り組むことができた。

## Aさんの学習する様子から気付いたICT活用の良さ

- ・タブレットを使ったとこで、自分で動画を見ながらゆっくり再生したりすることができ、生徒にとって有効な方法だった。
- ・生徒の興味があるものを使用することで、意欲的に作業する姿につながった。。

## ICTの活用方法や支援等の改善点

・他の生徒がタブレットに興味を持ってしまふことがあり、生徒によっては、タブレットの操作に固執してしまふ生徒もいるので、周りの生徒の様子も考える必要があると思った。